

Pioneer *sound.vision.soul*

DJミキサー

DJM-600

取扱説明書

このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。
本機の機能を十分に発揮させて効果的にご利用いただくためにご使用前にこの取扱説明書と別冊の「安全上のご注意」を最後までお読みください。

特に「安全上のご注意」は必ずお読みください。
お読みになった後は「保証書」、「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒に保管してください。
使用中にわからないことや不具合が生じたとき、きっとお役に立ちます。

安全に正しくお使いいただくために


絵表示について


この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。


警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

 記号は注意(警告を含む)しなければならない内容であることを示しています。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。

 〇記号は、禁止(やってはいけないこと)を示しています。図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

 記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

安全上のご注意

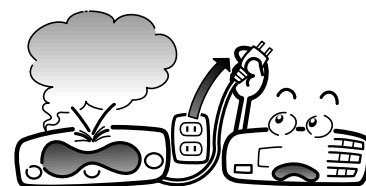
警告

〔異常時の処置〕

万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。



プラグを抜け



万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



プラグを抜け



万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



プラグを抜け



特 長

BPMサンプラー

曲のBPMを認識して指定した拍数分のソースを録音し、再生している曲のBPMに合わせてループ再生が行えます。

BPMカウンター

オートBPMカウンターを装備。曲のテンポが目で見えてわかりません。

ピークレベルメーター

全チャンネルに15ドットLEDインジケーター採用のピークレベルメーターを装備。

フェーダースタート/ストップ

クロスフェーダーもしくはチャンネルフェーダーをレベルアップ/ダウンするだけでCDプレーヤーがスタート/ストップします(当社CDプレーヤーCDJ-100S、CDJ-700SまたはCDJ-500接続時のみの機能です)。サンプラーのクロスフェーダースタートも可能です。

3バンドイコライザー & キル

HI、MID、LOWの各チャンネル対応イコライザーを搭載、また、減衰レベルは - 26dBまで落とせるキル機能となります。

多彩なエフェクト

外部エフェクトはもちろん、内部エフェクトも各チャンネル、マイクおよびマスターにかけることができます。ディレイ/エコー/オートパン/オートトランス/フィルター/フランジャー/リバーブ/ピッチシフターと多彩な効果が楽しめます。

充実した入出力端子

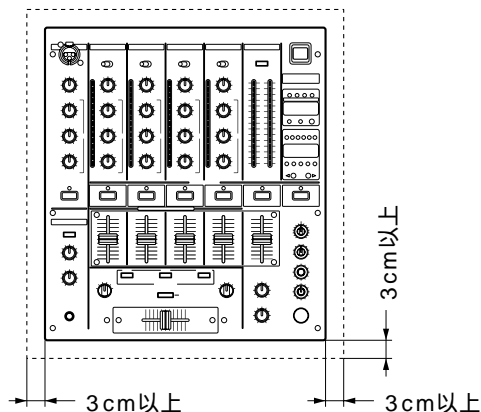
CD-2系統、LINE-3系統、PHONO-3系統(MM専用)マイク2系統の計10入力に、プロ仕様のXLR出力を含む2系統の出力とブースモニター出力、録音出力を独立して装備。さらに、外部エフェクターに対してもSEND/RETURN端子を装備しています。

付属品の確認

- ショートピンプラグ6個
後面のPHONO1～PHONO3端子に差し込まれています。
- 取扱説明書
- 安全上のご注意
- ご相談窓口・修理窓口のご案内
- 保証書

設置について

- ストープなどの発熱体のそばや、直射日光の当たる所には設置しないでください。
- アンブなど、熱を発生する機器の上に設置しないでください。
- キャリングケースやDJブースに収納して使用する場合は、放熱を良くするために他の機器や壁などから離してください。



製品のお手入れについて



通常は、柔らかい布で空拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5～6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞った後、汚れを拭きとり、その後乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがあるのでご注意ください。また、ゴムやビニール製品を長時間触れさせることも、キャビネットを傷めますので避けてください。化学ぞうきんなどをお使いの場合は、化学ぞうきんなどに添付の注意事項をよくお読みください。お手入れの際は、差し込みプラグをコンセントから抜いて行ってください。

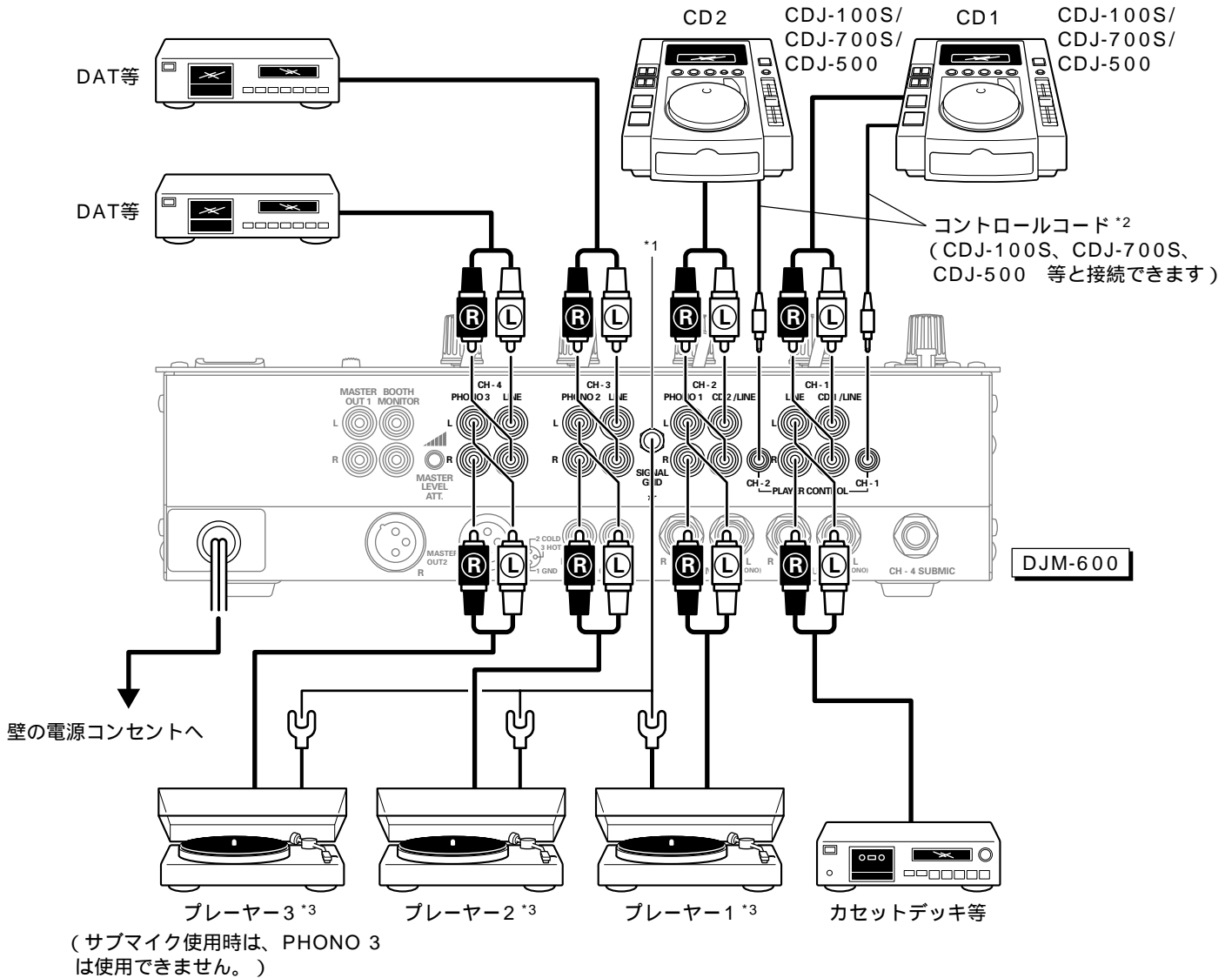
目 次

安全上のご注意	2
特 長	3
付属品の確認	3
設置について	3
製品のお手入れについて	3
接続のしかた	4
各部の名称と働き	6
エフェクト/サンプラー機能の使いかた	10
フェーダースタート機能の使いかた	20
故障? ちょっと調べてください	22
仕 様	23
保証とアフターサービスについて	裏表紙

接続のしかた

機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

1. 入力機器の接続



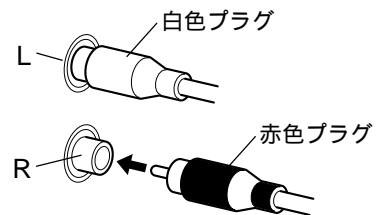
アナログプレーヤーを接続する場合はCH2～CH4のPHONO端子(PHONO1～PHONO3)に差し込まれているショートピンプラグ(6個)をはずしてお使いください。

このショートピンプラグは、アナログプレーヤーを接続しない場合に微小ノイズをカットして、より高性能にお使いいただくためのものですので、取りはずした後は大切に保管し、アナログプレーヤーの接続をはずした時は元のように差し込んでください。

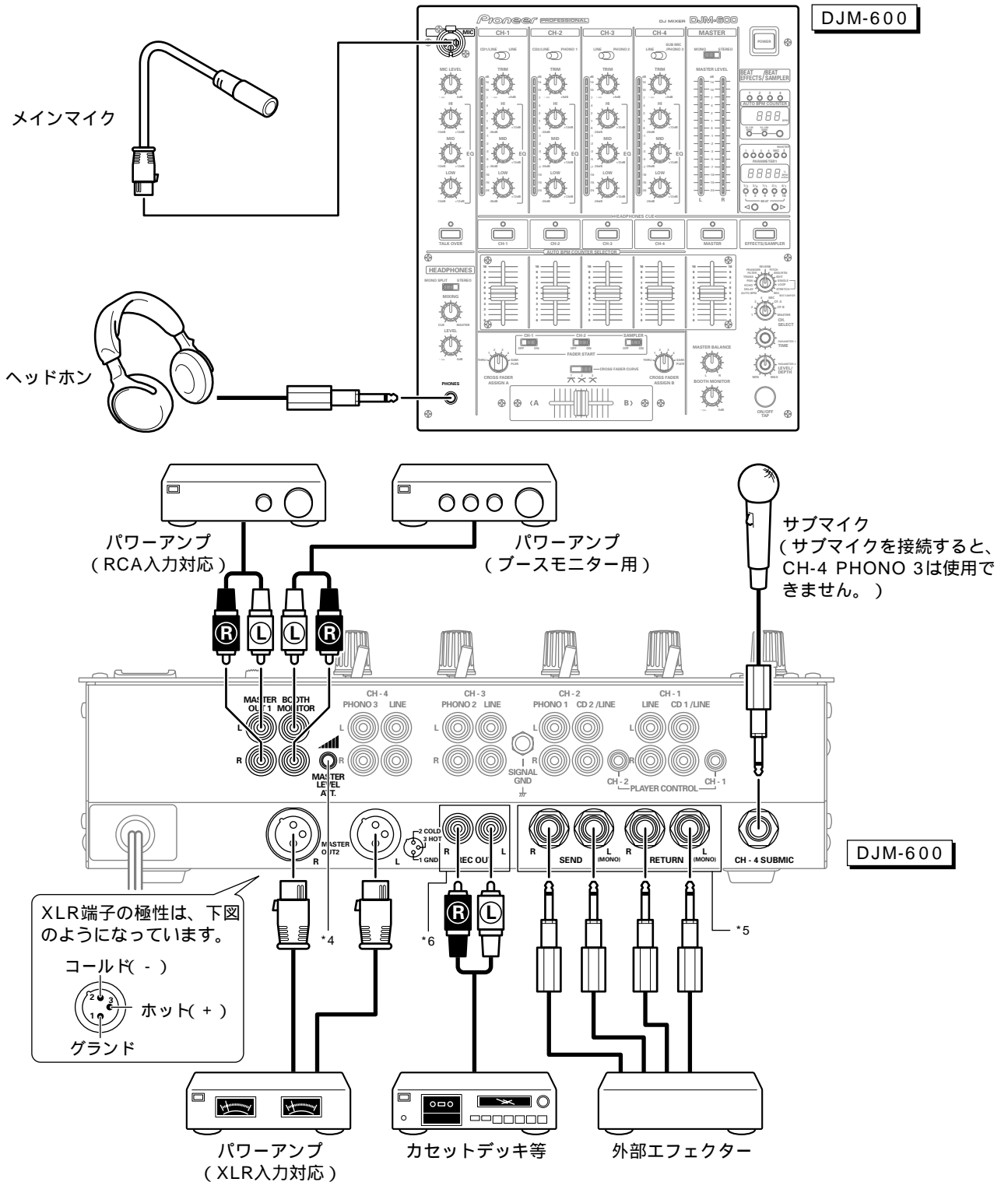
- *1 アナログプレーヤーのグランド用コードを接続します。
この端子はアナログプレーヤーの専用端子であり、安全アースではありません。
- *2 別売のCDJ-100S、CDJ-700S、CDJ-500 をCH-1、CH-2のCD端子に接続して使用する場合に、本機とCDプレーヤーをコントロールコードで接続するとフェーダースタート機能が使用できます。
- *3 本機のPHONO入力端子はMM専用ですので、接続するアナログプレーヤーはMMタイプのカートリッジをご使用ください。

オーディオ用コードのつなぎかた

赤、白ピンプラグ付きコードを使用します。
白いプラグは(L)側、赤いプラグは(R)側につなぎます。必ず、奥まで差し込んでください。



2. 出力、マイク等の接続



*4 MASTER LEVEL ATT. (マスター出力レベル調整つまみ)
MASTER OUT 1、2に接続するアンプやスピーカーを過大入力から保護するために、このつまみで出力レベルを減衰させることができます。(減衰量：- ~ 0dB)

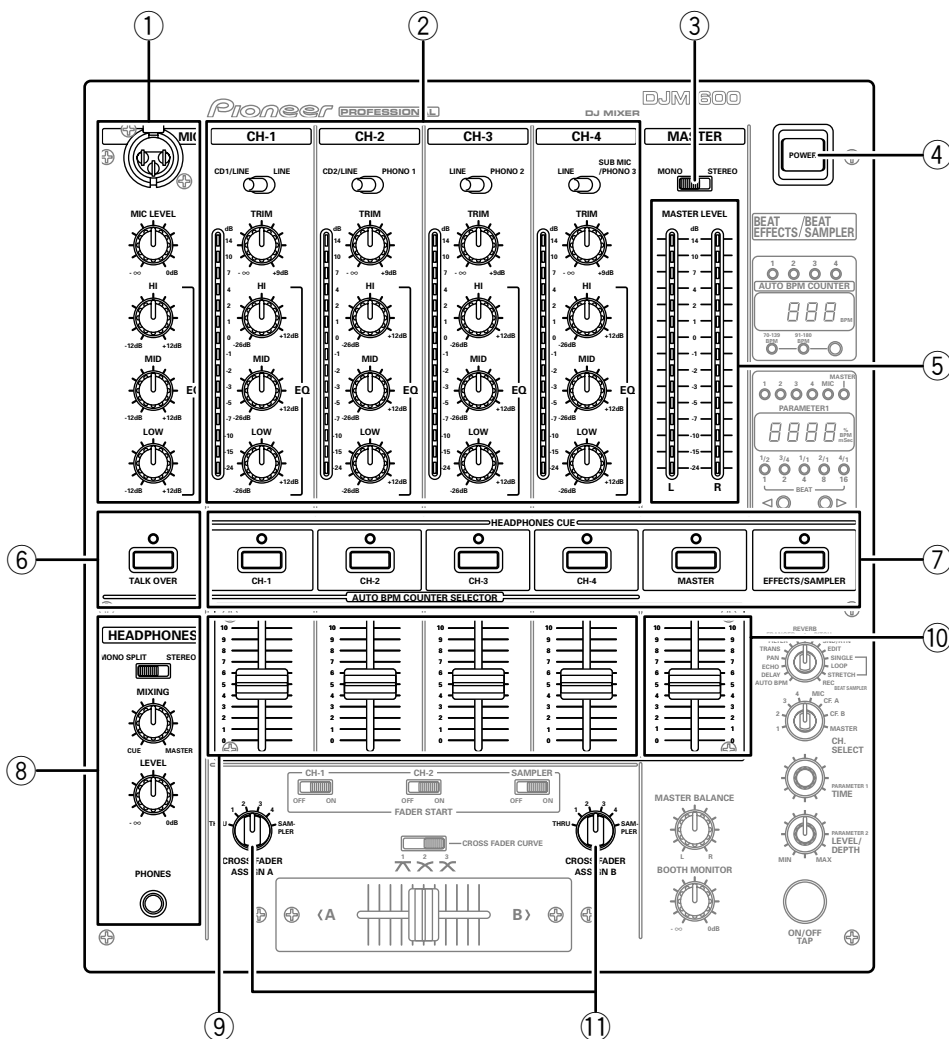
*5 音質調整のために他の機器を使用したい場合に接続します。
SEND (出力):
外部エフェクターの入力端子に接続します。
モノラル入力のエフェクターを使用するときは、Lチャンネル出力に接続します。エフェクターにはLRミックスされた音声を送られます。

RETURN (入力):
外部エフェクターの出力端子に接続します。
モノラル出力のエフェクターを使用するときは、Lチャンネル入力に接続します。エフェクターからの信号はLR両方のチャンネルに入力されます。

*6 REC OUT
マスター出力と同じ出力ソースが出力されます。
マスターボリューム、マスターバランス、モノスイッチの影響は受けません。

各部の名称と働き

コントロールパネル



① メインマイク入力端子とマイクコントロールつまみ

メインマイク入力端子：

キャノンタイプの端子を持つマイクを接続します。

MIC LEVEL (マイクレベル)：

メインマイクの音量を調整します。(減衰量： - ~ 0dB)

HI (ハイ)：

マイク音の高音を調整します。

センタークリックの位置でフラットです。

右に回すと増加します。(10kHzで + 12dBまで)

左に回すと減衰します。(10kHzで - 12dBまで)

MID (ミッド)：

マイク音の中音を調整します。

センタークリックの位置でフラットです。

右に回すと増加します。(1kHzで + 12dBまで)

左に回すと減衰します。(1kHzで - 12dBまで)

LOW (ロー)：

マイク音の低音を調整します。

センタークリックの位置でフラットです。

右に回すと増加します。(100Hzで + 12dBまで)

左に回すと減衰します。(100Hzで - 12dBまで)

② CH-1 ~ CH-4の入力切換スイッチ、コントロールつまみ、ピークレベルメーター

入力切換スイッチ：

各チャンネルに接続した機器のうち、どの入力ソースを使うか選択します。

CH-1：CD1/LINEとLINEの切換

CH-2：CD2/LINEとPHONO1の切換

CH-3：LINEとPHONO2の切換

CH-4：LINEとSUB MIC/PHONO3の切換

TRIM (トリム)：

入力信号のレベルを調整します。

右に回すとレベルが上がります。(+ 9dBまで)

左に回すとレベル下がります。(- まで)

HI (ハイ)：

入力音の高音を調整します。

センタークリックの位置でフラットです。

右に回すと増加します。(13kHzで + 12dBまで)

左に回すと減衰します。(13kHzで - 26dBまで)

MID (ミッド):

入力音の中音を調整します。
センタークリックの位置でフラットです。
右に回すと増加します。(1kHzで+12dBまで)
左に回すと減衰します。(1kHzで-26dBまで)

LOW (ロー):

入力音の低音を調整します。
センタークリックの位置でフラットです。
右に回すと増加します。(70Hzで+12dBまで)
左に回すと減衰します。(70Hzで-26dBまで)

ピークレベルメーター:

ピークレベルを2秒間ホールドして表示します。
チャンネルフェーダー前のレベルを表示します。
表示範囲は -24dB ~ +14dBです。

③ MONO/STEREO

(マスター出力モノラル/ステレオ切換スイッチ)
マスター出力をモノラル出力にするか、ステレオ出力にするか
選択します。

④ POWER (電源スイッチ)

⑤ MASTER LEVEL (マスターレベルメーター)

マスターボリューム調整後の出力レベルを2秒間ホールドして
表示します。
表示範囲は -24dB ~ +14dBです。

⑥ TALK OVER (トークオーバースイッチ)

スイッチを押すとメインマイク以外の音声のレベルが約14dB
下がり、赤色のLEDが点灯します。もう一度押すと元に戻り
ます。
ご注意: このスイッチを押すと音量が急激に大きく変化しま
す。

⑦ HEADPHONES CUE/AUTO BPM COUNTER
SELECTOR (ヘッドホンキュースイッチ/オート
BPMカウンターセレクター)

HEADPHONES CUE:

ヘッドホンでモニターするソース(CH-1~CH-4、
MASTER、EFFECTS/SAMPLER)を選択し、もう一度
押すと選択を解除します。
複数のボタンを押すと選択したソースのミックス音が得ら
れます。

AUTO BPM COUNTER SELECTOR:

エフェクト/サンプラー選択スイッチ(⑩)でAUTO BPMを
選択している時には、選択したチャンネル(CH-1~CH-4)
のBPMがBPM表示部(⑰)に表示されます。
2つ以上のチャンネルを同時に選択すると、BPMは正しく
表示されません。

⑧ ヘッドホン端子とヘッドホン出力コントロール部
MONO SPLIT/STEREO(モノスプリット/ステレオ切
換スイッチ):

ヘッドホンのモニター音を左右に振り分けるか、ステレオ
にするか選択します。

MONO SPLITにするとヘッドホン出力はモノラルになり、
Lchはヘッドホンキューで選択されたチャンネルの音声、
Rchはマスター出力されている音声になります。(ヘッドホ
ンキューでマスターが選択されている場合のみ)

MIXING (ミキシング調整つまみ):

ヘッドホンのモニター音を調整します。
右いっぱいに戻すとマスター出力の音声になります。(ヘッ
ドホンキューでマスターが選択されている場合のみ)
左いっぱいに戻すとヘッドホンキューで選択されたチャン
ネル(マスター以外)の音声になります。
センタークリックの位置で、マスター出力とヘッドホン
キューで選択された音声のレベルが半々になります。

LEVEL (レベル調整つまみ):

ヘッドホンのモニター音量を調整します。
CH-1~CH-4を選択した場合は、マスターボリューム(⑩)
とマスターバランス(⑮)の影響を受けません。
PHONES (ヘッドホン端子)

⑨ チャンネルフェーダーボリューム

CH-1~CH-4の音量を調整します。

⑩ マスターフェーダーボリューム

マスター出力の音量レベルを調整します。
アサインスイッチ(⑪)で選択されたチャンネルの信号はチャン
ネルフェーダーボリューム(⑨)及びクロスフェーダーボリュー
ム(⑭)により、それ以外のチャンネルの信号はチャンネル
フェーダーボリュームにより出力されます。

⑪ CROSS FADER ASSIGN A, B

(クロスフェーダーアサインA、Bスイッチ)

2つのソース(A、B)でクロスフェーダーを行うときに、A、B
に割り当てる信号を選択します。

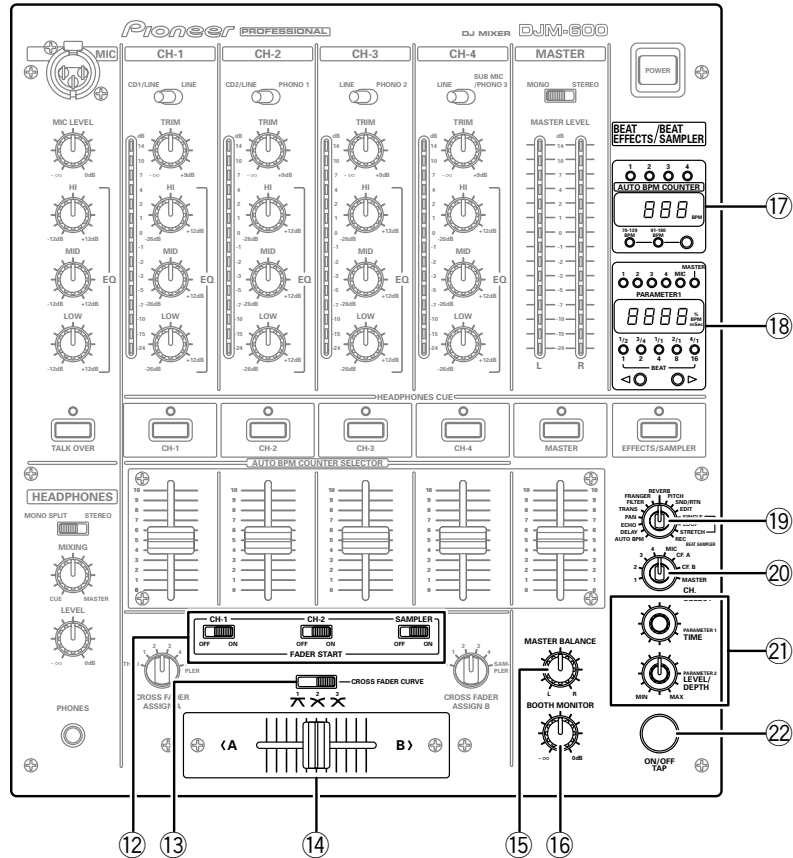
THRU: クロスフェーダーを使用しない場合はTHRUに
設定します。

1~4: A、Bに割り当てるチャンネル(CH-1~CH-4)
を選択します。

A、Bで割り当てたチャンネル以外はクロス
フェーダーを通らずに出力されます。

SAMPLER: 本機のエフェクト機能でサンプリングした音
声を、クロスフェーダーを使用して出力する場合
に選択します。(エフェクト/サンプラー選択ス
イッチ(⑩)でサンプラープレイ(SINGLE、
STRETCH、LOOP)を選択している場合)

各部の名称と働き



⑫ FADER START

(フェーダースタート ON / OFFスイッチ)

CH-1, CH-2 :

本機とCDプレーヤーCDJ-100SまたはCDJ-700S等をコントロールコードで接続している場合に、チャンネルフェーダーまたはクロスフェーダーでCDプレーヤーの演奏を自動的にスタートさせる機能のON/OFFスイッチです。

SAMPLER :

クロスフェーダーを使用して本機内蔵のサンプラーをスタートする機能のON/OFFスイッチです。

⑬ CROSS FADER CURVE

(クロスフェーダーカーブ切替スイッチ)

クロスフェーダーの立ち上がりカーブを3種類の中から選択します。

⑭ クロスフェーダーボリューム

アサインスイッチ(⑪)でA、Bに設定したソースの音のミックス量を調整します。

⑮ MASTER BALANCE

(マスターバランス調整つまみ)

マスター出力の左右のバランスを調整します。

⑯ BOOTH MONITOR

(ブースモニターレベル調整つまみ)

リアパネルにあるBOOTH MONITOR出力端子のレベルを調整します。

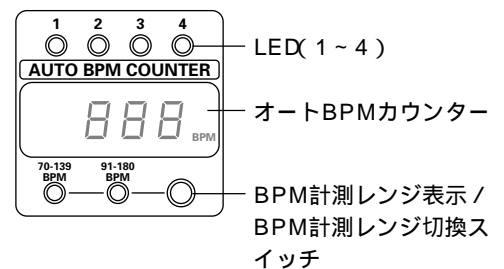
マスターレベル(⑩)、マスターバランス(⑮)の影響は受けませ

8 ン。

<DRA1383>

⑰ BPM表示部

エフェクト/サンプラー選択スイッチ(⑲)でAUTO BPMを選択した時に、オートBPMカウンターセクター(⑦)で選んだチャンネル(CH-1~CH-4)のBPMを表示します。



1~4 :

BPMを計測しているチャンネルを示します。

AUTO BPM COUNTER (オートBPMカウンター) :

BPM値を表示します。

計測中または測定できない場合は点滅します。

BPM計測レンジ表示 / BPM計測レンジ切替スイッチ :

●「70~139」「91~180」「70~180」「マニュアルモード」の中から選択します。

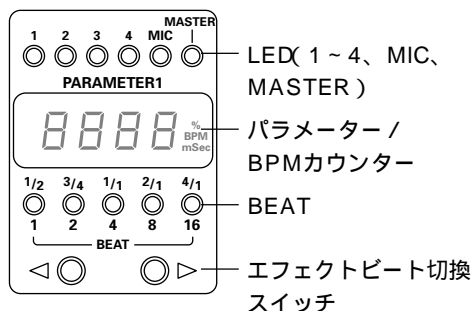
両方のLEDが点灯した状態が「70~180」で、両方のLEDが消灯した状態が「マニュアルモード」です。

BPMを計測する曲に合ったBPM帯域に設定してください。

●「マニュアルモード」については「BPMの測定」(12~13ページ)を参照してください。

エフェクト/サンプラー選択スイッチでAUTO BPM以外を選択した時は、エフェクト/サンプラーCH切換スイッチ(20)で選んだソースのBPMを表示します。

⑱ エフェクトパラメーター/BPM表示部



1~4、MIC、MASTER :

エフェクト/サンプラーCH切換スイッチ(20)で選択したソースを表示します。

エフェクト/サンプラーCH切換スイッチで「CF. A」「CF. B」が選択されている場合は、それぞれのアサインスイッチ(11)で選択されているチャンネル(1~4)が点灯します。

PARAMETER (パラメーター/BPMカウンター):

エフェクト/サンプラー選択スイッチ(19)の設定により、表示が異なります。

- AUTO BPMを選択した場合は、エフェクト/サンプラーCH切換スイッチで選んだソースのBPMを表示します。計測中または測定できない場合は点滅します。
- SEND/RETURNを選択した場合は、何も表示しません。
- AUTO BPM、SEND/RETURN以外を選択した場合は、エフェクトパラメーター1(21)で設定したエフェクト値を表示します。

BEAT (エフェクト同期表示/拍数表示):

エフェクト/サンプラー選択スイッチ(19)の設定により、表示が異なります。

- DELAY、ECHO、PAN、TRANSを選択した場合は、ソースのBPMに対してパラメーター1の値が何拍に相当するかを表示します。1/2~4/1拍に一致した場合は点灯します。1/2以下の時、エフェクトビート切換スイッチ(◀)を押すと1/4となり表示はすべて消灯します。4/1以上の時、エフェクトビート切換スイッチ(▶)を押すと8/1となり表示はすべて点灯します。拍数に一致しない場合は、近い拍数表示が点滅します。
- FILTER、FLANGER、SAMPLERを選択した場合は、ソースのBPMに対してパラメーター1の値が何拍に相当するかを表示します。1~16拍に一致した場合は点灯します。1以下の時、エフェクトビート切換スイッチ(◀)を押すと1/2となり表示はすべて消灯します。16以上の時、エフェクトビート切換スイッチ(▶)を押すと32となり表示はすべて消灯します。拍数に一致しない場合は、近い拍数表示が点滅します。
- PITCHを選択した場合は、ピッチ変化量を表示します。
- REVERBを選択した場合は、リバース量を表示します。
- AUTO BPM、SEND/RETURNを選択した場合は、何も表示しません。

エフェクトビート切換スイッチ:

エフェクト/サンプラーCH切換スイッチ(20)で選択したソースのBPMに従い、エフェクト/サンプラーパラメーター1(21)の値を変更します。

エフェクト/サンプラー選択スイッチ(19)の設定により、設定値が異なります。

- DELAY、ECHO、PAN、TRANSを選択した場合は、ソースのBPMに対してパラメーター1の値を拍数単位で設定します。(1/4~8/1)
- FILTER、FLANGER、SAMPLERを選択した場合は、ソースのBPMに対してパラメーター1の値を拍数単位で設定します。(1/2~32)
- DELAY、ECHOを選択した場合はパラメーター1の値が3500msを越える拍数は設定できません。
- SAMPLERを選択した場合はパラメーター1の値が8000msを越える拍数は設定できません。
- PITCHを選択した場合は、-100%、-50%、-33%、0%、33%、50%、100%に設定します。
- REVERBを選択した場合は、10%、20%、35%、50%、65%、80%、90%に設定します。
- AUTO BPM、SEND/RETURNを選択した場合は機能しません。

⑲ エフェクト/サンプラー選択スイッチ

各種エフェクターの選択を行います。(12ページ参照)

⑳ CH. SELECT (エフェクト/サンプラーCH切換スイッチ)

エフェクトするソースを選択します。

㉑ PARAMETER 1, 2 (エフェクト/サンプラーパラメーター1, 2調整つまみ)

内蔵エフェクターおよびサンプラーのパラメーター値を調整します。(14ページ参照)

㉒ ON/OFF, TAP (エフェクト/サンプラー ON/OFFスイッチ、タップスイッチ)

エフェクト/サンプラー選択スイッチ(19)の設定により、効果が異なります。

- DELAY、ECHO、PAN、TRANS、FILTER、FLANGER、REVERB、PITCH、SEND/RETURNを選択した場合は、エフェクトのON/OFFスイッチになります。(OFF: オレンジ色の点灯、ON: オレンジ色の点滅)
- AUTO BPMを選択した場合はタップスイッチとなり、手動入力によりビートカウンターとして使用することができます。(オレンジ色の点灯) タップスイッチを使用してBPM測定を行うと、BPM計測レンジ表示のLEDが両方とも消灯し、マニュアルモード(13ページ参照)になります。
- SAMPLER RECを選択した場合は、サンプラー録音のON/OFFスイッチになります。(18ページ参照) (REC OFF: 赤色の点灯、REC ON: 赤色の点滅)
- SAMPLER PLAYを選択した場合は、サンプラー再生のON/OFFスイッチになります。(19ページ参照) (PLAY OFF: 緑色の点灯、PLAY ON: 緑色の点滅)

エフェクト/サンプラー機能の使いかた

内蔵のDSP(デジタルシグナルプロセッサ)により、音響効果を楽しんだり、BPMを測定したりすることができます。

各種エフェクターの特長

オートBPMカウンター

曲のBPM(Beat Per Minutes: 曲の速さ)を自動的に計測し、デジタル数字で表示します。

単に低音のビートをカウントするだけでなく、DJが必要とする曲本来のBPMをコンピュータにより演算してデジタルで表示します。従来のように人間の耳だけに頼ることなく、視覚的にも判断できるようになりました。これによりスピードの違う曲同士を、より素早く簡単に合わせることができます。

また、TAPスイッチでビートを手動入力することにより、BPMが測定しにくい曲(アカペラ、アドリブ等)のBPM設定も可能です。

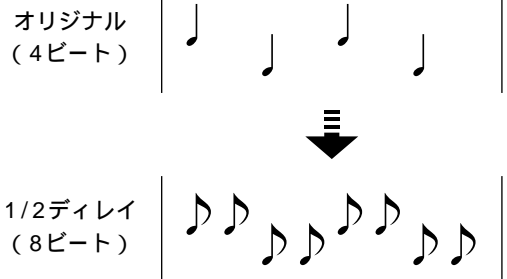
ビートエフェクター(BPMに連動する各種エフェクト)

前記のオートBPMカウンターで計測したBPMに各種エフェクトが連動し、今までにない音の演出が可能です。

1. デレイ(DELAY: 繰り返し音1回)

1/4、1/2、3/4、1/1、2/1、4/1、8/1ビート(拍)のデレイ音を素早く簡単に合わせるすることができます。例えば、1/2ビートのデレイ音を合わせると、4拍子が8拍子になります。また、3/4ビートのデレイ音を合わせると、跳ねたリズムになります。

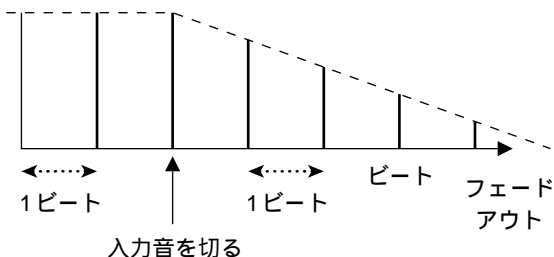
(例)



2. エコー(ECHO: 繰り返し音数回)

1/4、1/2、3/4、1/1、2/1、4/1、8/1ビート(拍)のエコー音を素早く簡単に合わせるすることができます。例えば、1/1ビートのエコー音で入力音を切ると、ビートに合わせた音を繰り返しながらフェードアウトします。また、1/1ビートのエコー音をマイクにかけると、マイク音がビートに合わせて再生されます。また、1/1ビートのエコー音を曲のボーカルにかけると輪唱効果が得られます。

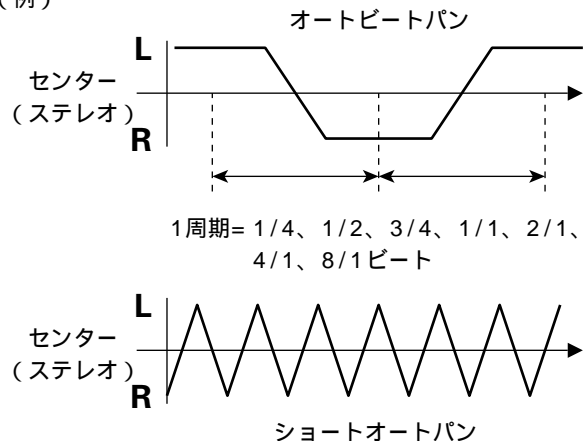
(例)



3. オートパン(PAN(L-R BALANCE))

1/4、1/2、3/4、1/1、2/1、4/1、8/1ビート(拍)単位で音を自動的にリズムに合わせて、左右に音を振ること(オートビートパン)ができます。また、人間の手の操作では不可能な、短時間で左右に音を振るショートオートパンも可能です。

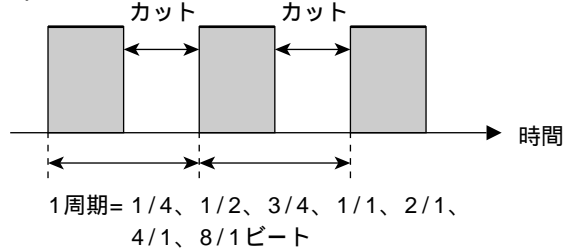
(例)



4. オートトランス(TRANS)

1/4、1/2、3/4、1/1、2/1、4/1、8/1ビート(拍)単位で、音を自動的にリズムに合わせてカットします。

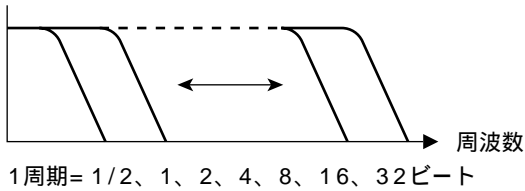
(例)



5. フィルター (FILTER)

1/2、1、2、4、8、16、32ビート(拍)単位でフィルターの周波数を移動させ、音色を大きく変化させます。

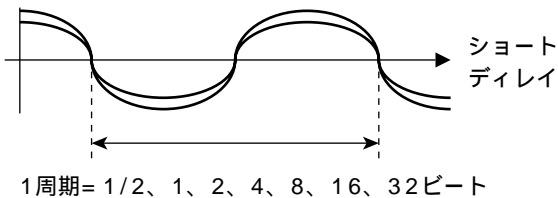
(例)



6. フランジャー (FLANGER)

1/2、1、2、4、8、16、32ビート(拍)で1周期のフランジャー効果を素早く簡単に作り出すことができます。

(例)



7. リバース (REVERB)

音の残響効果が得られます。

8. ピッチシフター (PITCH SHIFTER)

±1オクターブの範囲で音程(ピッチ、キー)を変えることができます。アナログレコードのターンテーブルやCDプレーヤーのスピード変化は%単位なので、その音程変化を%単位で補正することができます。

マイク音にピッチシフターをかけると、ボイスチェンジャー効果が得られます。また、原音とミックスすることでコーラス効果が得られます。

9. センド/リターン

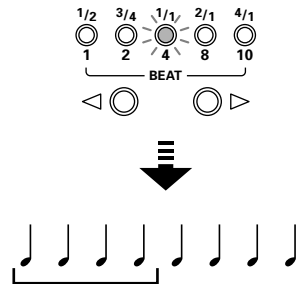
(SEND/RETURN : 外部エフェクト入出力)

お手持ちのエフェクター、サンプラー等を接続することにより、多彩なエフェクトが可能です。

10. サンプラー録音 (SAMPLER REC)

曲のBPMを認識し、指定した拍数 (BEAT)でサンプリングします。

(例)



11. サンプラー再生 (SAMPLER PLAY)

ストレッチループ

サンプリングした音のBPMを、違う曲のBPMに合わせて自動的に伸ばしたり縮めたりして再生します。

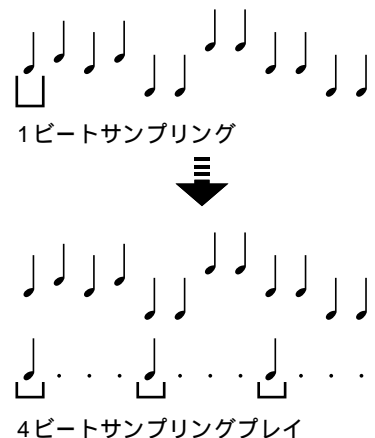
(例)



ループ

サンプリングした音を、違う拍数 (BEAT)で再生します。

(例)

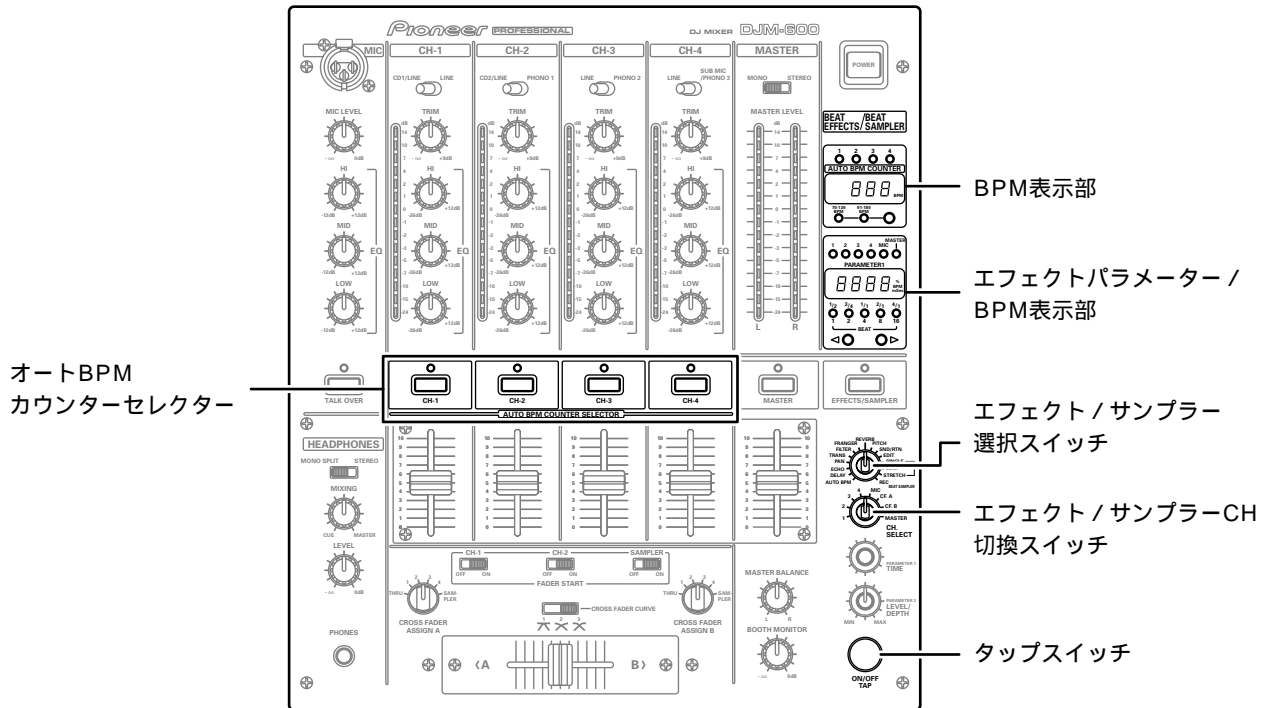


エフェクト/サンプラー機能の使いかた

BPMの測定

オートBPMカウンターセクターで選んだチャンネルと、エフェクト/サンプラーCH切換スイッチで選んだチャンネルのBPMを測定して表示しますので、スピードの違う曲同士を簡単に合わせることができます。(測定範囲：70.0～180.0 BPM)

例：オートBPMカウンターセクターCH-1とエフェクト/サンプラーCH切換スイッチ2(CH-2)の曲のBPMを表示する場合。



① エフェクト/サンプラー選択スイッチをAUTO BPMにする。

② BPM計測レンジ切換スイッチを押して、CH-1、CH-2のBPM帯域を選択する。

- 「70～139」「91～180」「70～180」の中からBPMを計測する曲に合ったBPM帯域を選択します。両方のLEDが点灯した状態が「70～180」です。

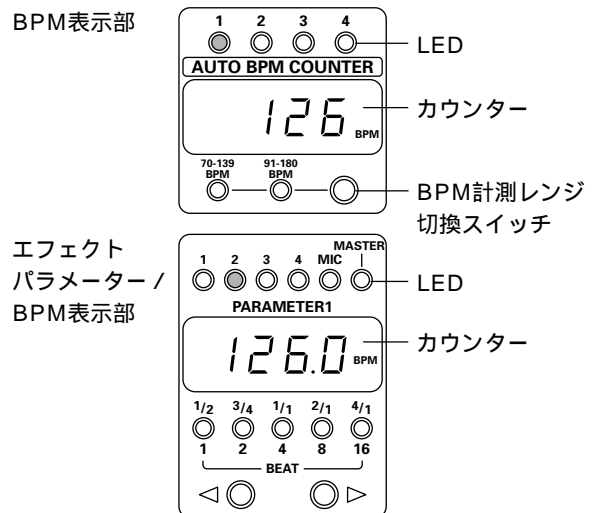
③ エフェクト/サンプラーCH切換スイッチを2にする。

- エフェクトパラメーター/BPM表示部のLED「2」が点灯します。
- CH-2に入力されている曲のBPMがエフェクトパラメーター/BPM表示部のカウンターに表示されます。

- * 2秒以上測定できないと点滅します。
- * 曲によってはオートBPMカウンターでBPMを測定できない場合があります。その場合はマニュアルモードによる設定(13ページ参照)を行ってください。

④ オートBPMカウンターセクターのCH-1を押す。

- BPM表示部のLED「1」が点灯します。
- CH-1に入力されている曲のBPMがBPM表示部のカウンターに表示されます。
- * BPMを正しく測定する為に、オートBPMカウンターセクターはCH-1～CH-4の1つのみを選択してください。



● CH-1とCH-2のBPMが126で一致した場合の表示例

マニュアルモードによるBPMの測定方法

オートBPMモードでBPMの測定ができない場合

オートBPM測定ができない場合は、タップスイッチでの手動入力を行ってください。

- 曲のビートに合わせてタップスイッチを押すと、BPM計測レンジ表示が両方とも消灯してマニュアルモードに入ります。
- タップ入力によるBPM値がエフェクトパラメーター / BPM表示部(下側)のカウンターに表示され、BPM表示部(上側)のカウンターの表示は消えます。
- オートBPMモードに戻るには、BPM計測レンジ切換スイッチを押して計測レンジを設定してください。

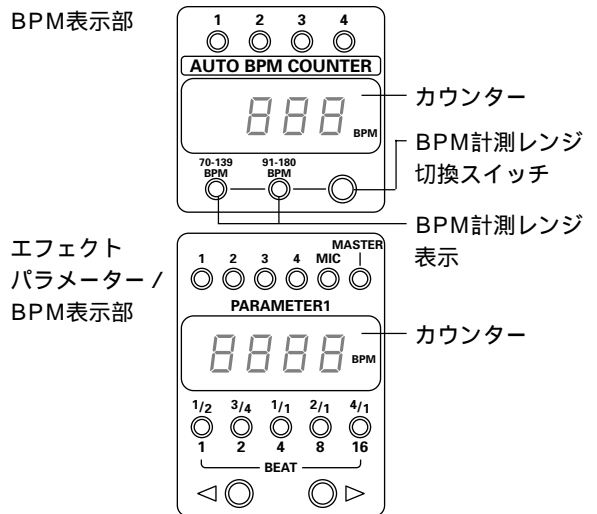
ディレイ、エコー、オートパン、オートトランス、フィルター、フランジャーの操作中(14~15ページ)またはサンプラーの操作中(18~19ページ)にBPMが測定できない場合

エフェクト操作中またはサンプラー操作中にBPMが2秒以上測定できないと、BPM表示部のカウンターが点滅します。その場合は、エフェクト/サンプラー選択スイッチをAUTO BPMに切り換えて、タップスイッチでの手動入力を行ってください。

- タップ入力によるBPM値がエフェクトパラメーター / BPM表示部(下側)のカウンターに表示された後、エフェクト/サンプラー選択スイッチをもとのエフェクトに戻すと、BPM表示部(上側)のカウンターに入力したBPM値が表示されます。

あらかじめ曲のBPMがわかっている場合は、マニュアルモードでのBPM入力が可能です。

- エフェクト/サンプラー選択スイッチをAUTO BPMに切り換え、BPM計測レンジ切換スイッチを押して、BPM計測レンジ表示を両方とも消灯させます。
- エフェクト/サンプラーパラメーター1調整つまみ(TIME)を回すと、エフェクトパラメーター / BPM表示部のカウンターにBPM値が表示され1の桁から調整ができます。タップスイッチを押しながらパラメーター1調整つまみを回すと、BPM値の小数点1桁から調整できます。BPM値を設定し、エフェクト/サンプラー選択スイッチをもとのエフェクトに戻すと、BPM表示部のカウンターに設定したBPM値が表示されます。



カウンター
BPM計測レンジ
切換スイッチ
BPM計測レンジ
表示
カウンター

カウンター

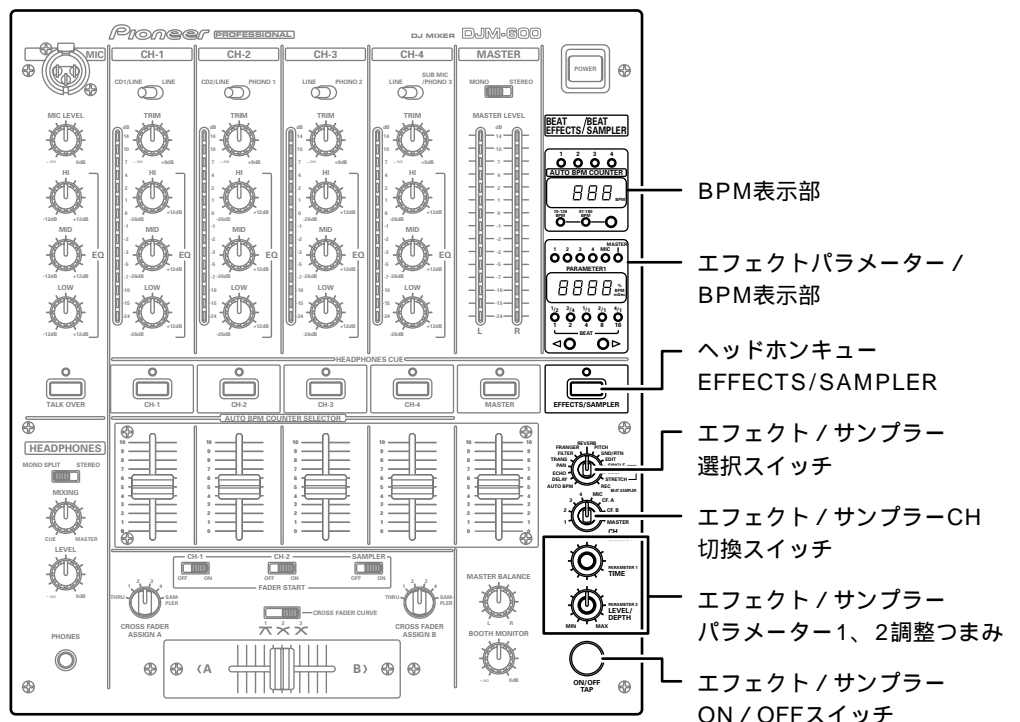
エフェクト/サンプラー機能の使いかた

ディレイ、エコー、オートパン、オートトランス、フィルター、フランジャーの操作

各エフェクターの設定項目

エフェクト	エフェクト/サンプラーパラメーター1 (TIME)	エフェクト/サンプラーパラメーター2 (LEVEL/DEPTH)
DELAY ディレイ	ディレイタイム(遅延時間) 設定範囲: 1~3500mSec 1mSecステップ	エフェクトミックスレシオ (原音とディレイ音のレベルのバランス)
ECHO エコー	ディレイタイム(遅延時間) 設定範囲: 1~3500mSec 1mSecステップ	エフェクトミックスレシオ (原音とエコー音のレベルのバランス)
PAN オートパン	パンタイム(切り換え時間) 設定範囲: 10~16000mSec 10~1000は5mSecステップ 1000~16000は10mSecステップ	エフェクトミックスレシオ (原音とパン音のレベルのバランス)
TRANS オートトランス	トランスタイム(切り換え時間) 設定範囲: 10~16000mSec 10~1000は5mSecステップ 1000~16000は10mSecステップ	エフェクトミックスレシオ (原音とトランス音のレベルのバランス)
FILTER フィルター	フィルタータイム(周期) 設定範囲: 10~16000mSec 10~1000は5mSecステップ 1000~16000は10mSecステップ	レゾナンス (フィルターレゾナンス音のレベル)
FLANGER フランジャー	フランジャータイム(周期) 設定範囲: 10~16000mSec 10~1000は5mSecステップ 1000~16000は10mSecステップ	フィードバック (フランジャーフィードバック音のレベル)

例: CH-2の曲にディレイ効果を加える場合。



① エフェクト/サンプラー選択スイッチをDELAYにする。

② エフェクト/サンプラーCH切換スイッチを2にする。

- エフェクトパラメーター/BPM表示部のLED「2」が点灯します。
- CH-2に入力されている曲のBPMがBPM表示部のカウンターに表示されます。
- * BPM計測レンジ切換スイッチでCH-2の曲に合ったBPM帯域を選択することができます。
- * 2秒以上測定できないと点滅します。その場合はマニュアルモードによる設定(13ページ参照)を行ってください。

③ パラメーター値を設定する。

ヘッドホンキューのEFFECTS/SAMPLERを押すと、ヘッドホン出力でエフェクト音を確認することができます。

ディレイタイムの設定

- BPM表示部のカウンターに表示されたBPMの1拍の時間に合わせてディレイタイムを設定すると、より効果的なエフェクトをかけることができます。
- エフェクトビート切換スイッチ押すことにより、測定したBPMの1拍の時間に対して1/4～8/1のディレイタイムが設定できます。
- エフェクト/サンプラーパラメーター1調整つまみ(TIME)では、より細かなディレイタイムの設定が可能です。
- BPMの1拍の時間に対して1/2のディレイタイムを設定すると、ビート表示の「1/2」が点灯しますので、ビート表示を目安にパラメータ値を設定することができます。

原音とディレイ音のレベルのバランス設定

- エフェクト/サンプラーパラメーター2調整つまみ(LEVEL/DEPTH)で、原音とディレイ音のレベルのバランスを設定します。左に回すとディレイ音は小さくなり、右に回すとディレイ音は大きくなります。

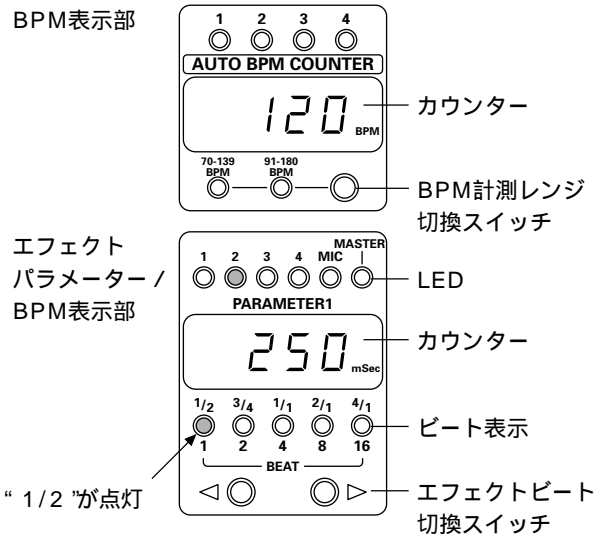
④ エフェクト/サンプラーON/OFFスイッチをONにする。

- エフェクト/サンプラーON/OFFスイッチがオレンジ色の点滅になり、マスター出力にエフェクト(ディレイ)がかかります。
- もう一度押すとエフェクトはOFFになります。
- * ビートに合わせてONすれば、エフェクトの周期のスタートもビートに合ったものになります。

エコー、オートパン、オートトランス、フィルター、フランジャーも同様に設定することができます。

ご注意：

- ディレイ、エコー、リバーブ(p.16～17)などのエフェクトがONの時に、エフェクト/サンプラーCH切換スイッチでチャンネルを切り換えた場合、切り換える前のチャンネルのエフェクトの残響部分はすべて出力されます。
- エフェクト/サンプラー選択スイッチは、エフェクトがOFF(エフェクト/サンプラーON/OFFスイッチがオレンジ色の点灯)の時に操作してください。エフェクトがONの時に操作すると、ノイズ音が発生する場合があります。



- BPM 120(時間換算500mSec)の曲に1/2拍ディレイ(250mSec)を設定した場合の表示例

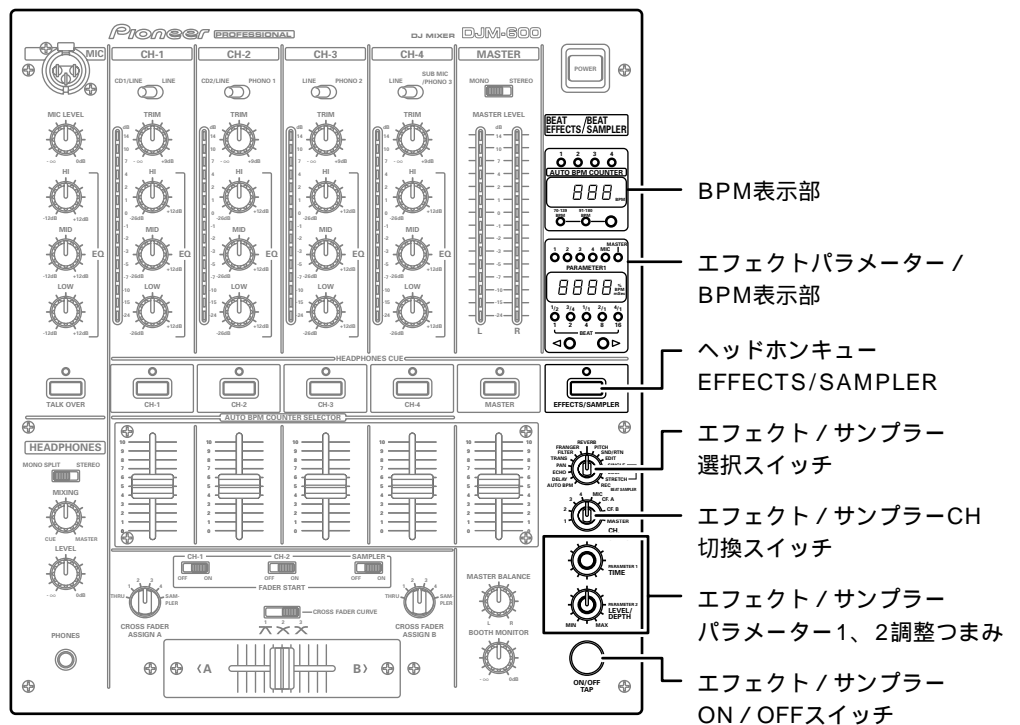
エフェクト/サンプラー機能の使いかた

リバーブ、ピッチシフターの操作

各エフェクターの設定項目

エフェクト	エフェクト/サンプラーパラメーター1 (TIME)	エフェクト/サンプラーパラメーター2 (LEVEL/DEPTH)
REVERB リバーブ	リバーブタイム(反響時間) 設定範囲: 1 ~ 100 % 1%ステップ	エフェクトミックスレシオ (原音とリバーブ音のレベルのバランス)
PITCH ピッチシフター	ピッチ(音程) 設定範囲: 0 ~ ±100 % 1%ステップ	エフェクトミックスレシオ (原音とピッチシフト音のレベルのバランス)

例: CH-3の曲に90%のピッチシフトを行う場合。



① エフェクト/サンプラー選択スイッチをPITCHにする。

② エフェクト/サンプラーCH切換スイッチを3にする。
● エフェクトパラメーター/BPM表示部のLED '3' が点灯します。
* BPM表示部はすべて消灯します。

③ パラメーター値を設定する。
ヘッドホンキューのEFFECTS/SAMPLERを押すと、ヘッドホン出力でエフェクト音を確認することができます。

ピッチの設定

- エフェクトビート切換スイッチの▶ を押すとピッチ設定を +33%、+50%、+100%、◀ を押すと -33%、-50%、-100%に変更します。
 - エフェクト/サンプラーパラメーター1調整つまみ (TIME) では、より細かなピッチの設定が可能です。
- 原音とピッチシフト音のレベルのバランス設定
- エフェクト/サンプラーパラメーター2調整つまみ (LEVEL/DEPTH) で、原音とピッチシフト音のレベルのバランスを設定します。左に回すとピッチシフト音は小さくなり、右に回すとピッチシフト音は大きくなります。

④ エフェクト/サンプラースイッチON/OFFをONにする。

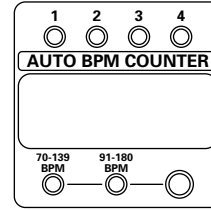
- エフェクト/サンプラーON/OFFスイッチがオレンジ色の点滅になり、マスター出力にエフェクト(ピッチシフト)がかかります。
- もう一度押すとエフェクトはOFFになります。

リバーブも同様に設定することができます。

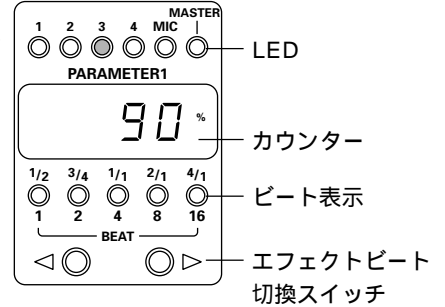
ご注意：

- ディレイ、エコー(p.14~15)、リバーブなどのエフェクトがONの時に、エフェクト/サンプラーCH切換スイッチでチャンネルを切り換えた場合、切り換える前のチャンネルのエフェクトの残響部分はすべて出力されます。
- エフェクト/サンプラー選択スイッチは、エフェクトがOFF(エフェクト/サンプラーON/OFFスイッチがオレンジ色の点灯)の時に操作してください。エフェクトがONの時に操作すると、ノイズ音が発生する場合があります。

BPM表示部



エフェクト
パラメーター/
BPM表示部



● CH-3に90%のピッチシフトをかけた場合の表示例

外部エフェクターを使用する場合の操作

例：CH-3の曲に外部のエフェクトをかける場合。

① エフェクト/サンプラー選択スイッチをSEND/RETURNにする。

② エフェクト/サンプラーCH切換スイッチを3にする。

- エフェクトパラメーター/BPM表示部のLED* 3 が点灯します。

③ 外部エフェクターのパラメーター等を設定する。

- ヘッドホンキューのEFFECTS/SAMPLERを押すと、ヘッドホン出力でエフェクト音を確認することができます。

④ リターンレベルを調整する。

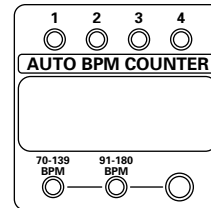
- エフェクト/サンプラーパラメーター2調整つまみ(LEVEL/DEPTH)で、外部エフェクターからのリターンレベルを調整します。

* エフェクト/サンプラーパラメーター1調整つまみ(TIME)は機能しません。

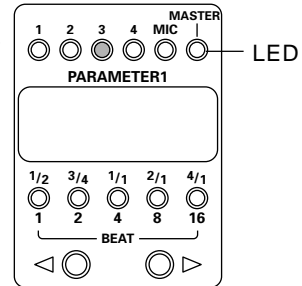
⑤ エフェクト/サンプラーON/OFFスイッチをONにする。

- エフェクト/サンプラーON/OFFスイッチがオレンジ色の点滅になり、CH-3に入力されている曲にエフェクト(外部エフェクト)がかかります。
- もう一度押すとエフェクトはOFFになります。

BPM表示部



エフェクト
パラメーター/
BPM表示部



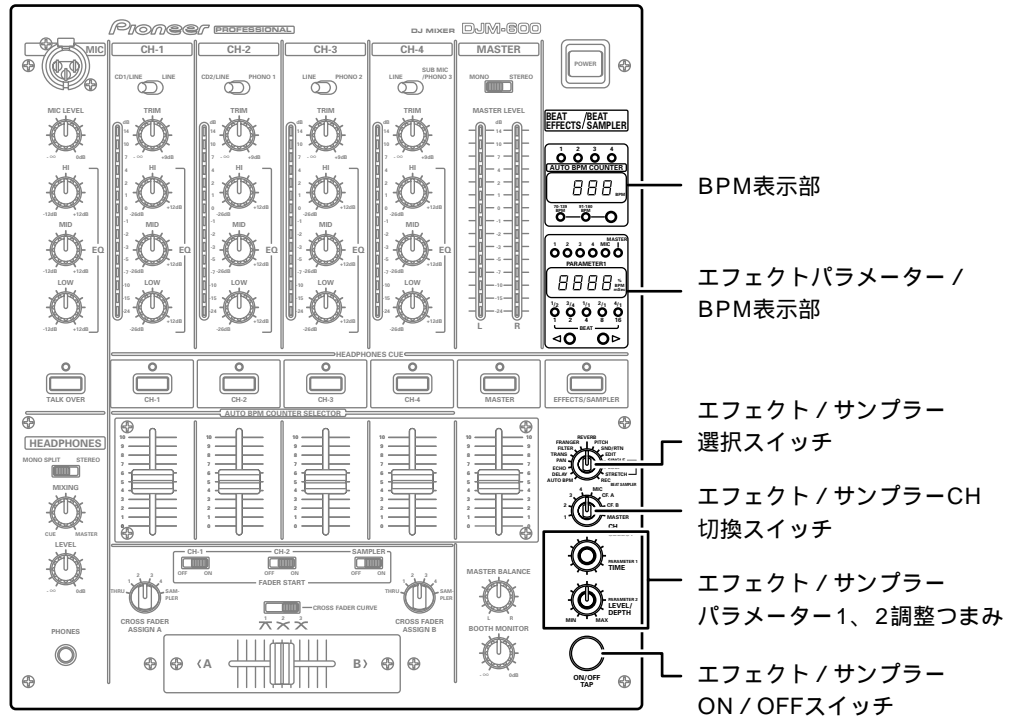
● CH-3に外部のエフェクトをかけた場合の表示例

エフェクト/サンプラー機能の使いかた

サンプラー録音の操作

本機に内蔵のサンプラーで録音する曲のBPMを認識し、指定した拍数(1~16)だけ自動的に録音します。録音時間は最大で8秒間です。

例：CH-1の曲(BPM=120)を8拍分録音する場合。



1 エフェクト/サンプラー選択スイッチをSAMPLER RECにする。

- エフェクト/サンプラーON/OFFスイッチが赤色の点灯になります。

2 エフェクト/サンプラーCH切換スイッチを1にする。

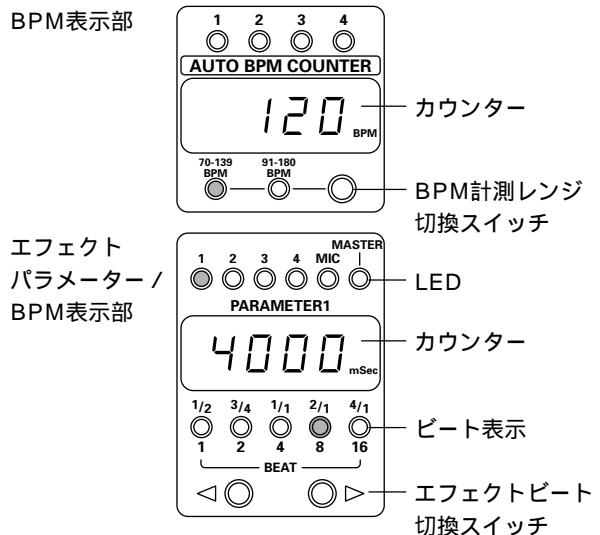
- エフェクトパラメーター/BPM表示部のLED「1」が点灯します。
- CH-1に入力されている曲のBPMがBPM表示部のカウンターに表示されます。
- * BPM計測レンジ切換スイッチでCH-1の曲に合ったBPM帯域を選択することができます。
- * 2秒以上測定できないと点滅します。その場合はマニュアルモードによる設定(13ページ参照)を行ってください。

3 録音時間を設定する。

- エフェクトビート切換スイッチを押して、ビート表示の「8」を点灯させます。
- * 録音時間を細かく設定したい場合は、エフェクト/サンプラーパラメーター1調整つまみ(TIME)で設定してください。設定時間はエフェクトパラメーター/BPM表示部のカウンターに表示されます。録音時間は最大で8秒間です。
- * エフェクト/サンプラーパラメーター2調整つまみ(LEVEL/DEPTH)は機能しません。

4 録音したいタイミングでエフェクト/サンプラーON/OFFスイッチをONにする。

- プレーヤーなどの音声信号を検知すると自動的に録音を始めます。
- 録音が始まると、エフェクト/サンプラーON/OFFスイッチは赤色の点滅になります。
- 指定した拍数分の録音が終了すると自動で録音が終了します。
- 録音中にエフェクト/サンプラーON/OFFスイッチを押すと、録音が終了します。



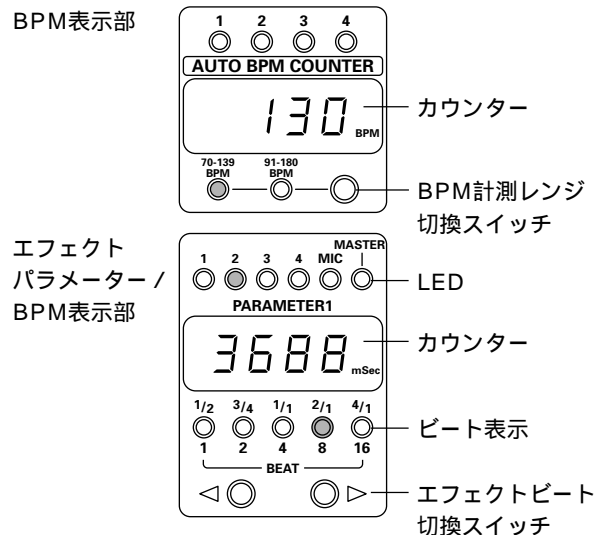
サンプラー再生の操作

本機に内蔵のサンプラーで録音した音声を再生する場合、以下の3通りの方法があります。

SINGLE PLAY シングル再生	エフェクト/サンプラーON/OFFスイッチを押している間だけ再生します。
LOOP PLAY ループ再生	録音した音声を繰り返し再生します。
STRETCH LOOP PLAY ストレッチループ再生	ミックスする曲のBPMを元に、指定した拍数(1~16)内で録音した音声を繰り返し再生します。録音した音声は、指定された拍数に合わせて伸張(ストレッチ)して再生されます。

例：録音した曲をストレッチループ再生でCH-2の曲(BPM=130)とミックスする場合。

- エフェクト/サンプラー選択スイッチをSTRETCH LOOP PLAYにする。
 - エフェクト/サンプラーON/OFFスイッチが緑色の点灯になります。
- エフェクト/サンプラーCH切換スイッチを2にする。
 - エフェクトパラメーター/BPM表示部のLED*2が点灯します。
 - CH-2に入力されている曲のBPMがBPM表示部のカウンターに表示されます。
 - * BPM計測レンジ切換スイッチでCH-2の曲に合ったBPM帯域を選択することができます。
 - * 2秒以上測定できないと点滅します。その場合はマニュアルモードによる設定(13ページ参照)を行ってください。
- 再生時間、再生レベルを設定する。
 - エフェクトビート切換スイッチを押して、ビート表示の「8」を点灯させます。
 - * 再生時間を細かく設定したい場合は、エフェクト/サンプラーパラメーター1調整つまみ(TIME)で設定してください。設定時間はエフェクトパラメーター/BPM表示部のカウンターに表示されます。再生時間は10~16000mSecです。
 - * エフェクト/サンプラーパラメーター2調整つまみ(LEVEL/DEPTH)で再生レベルを設定します。
- エフェクト/サンプラーON/OFFスイッチをONにする。
 - 再生が始まると、エフェクト/サンプラーON/OFFスイッチは緑色の点滅になります。



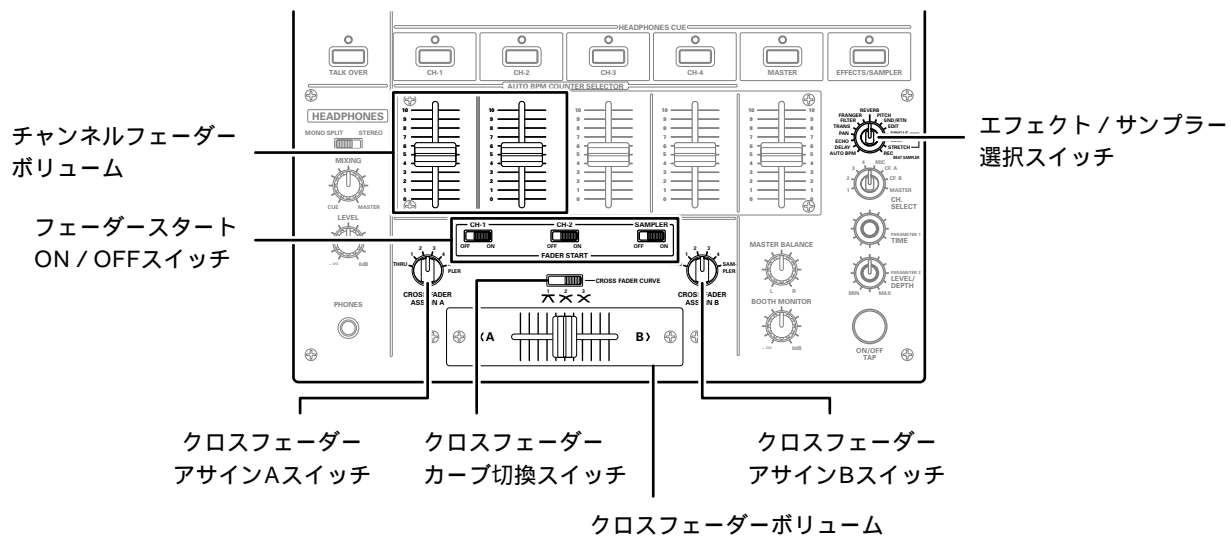
サンプラーエディットの操作

本機に内蔵のサンプラーで録音した音声の再生終了位置を設定します。

- エフェクト/サンプラー選択スイッチをEDITにする。
 - エフェクト/サンプラーON/OFFスイッチが緑色の点灯になります。
- エフェクト/サンプラーON/OFFスイッチをONにする。
 - 再生が始まるとエフェクト/サンプラーON/OFFスイッチは緑色の点滅になります。
- 再生終了位置を設定する。
 - ループ再生音をモニターしながらエフェクト/サンプラーパラメーター1調整つまみ(TIME)で再生終了位置(ループエンドポイント)を設定します。設定時間はエフェクトパラメーター/BPM表示部のカウンターに表示されます。
 - * 録音した時間より長く設定することはできません。

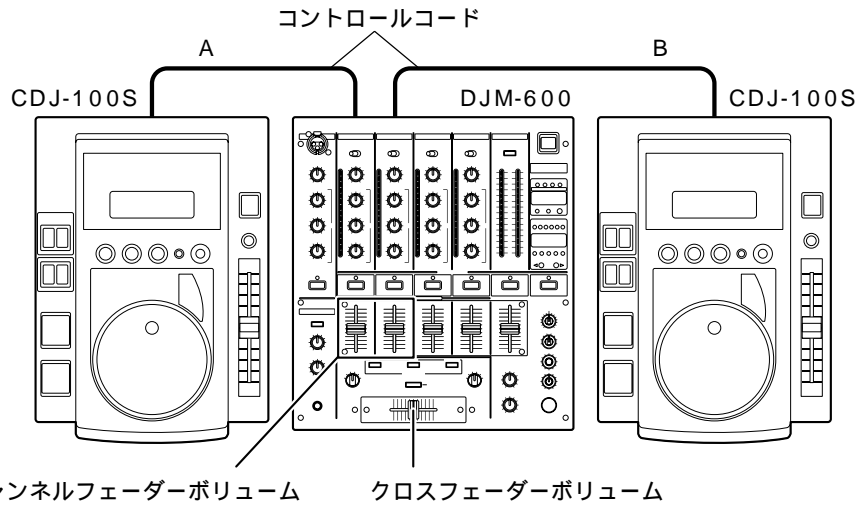
フェーダースタート機能の使いかた

別売のCDプレーヤーCDJ-100S、CDJ-700S、CDJ-500 をCH1、CH2に接続すると、チャンネルフェーダーボリュームやクロスフェーダーボリュームでプレーヤーの演奏をスタートすることができます。(コントロールコードの接続が必要です。)
また、本機内蔵のサンプラーで録音した音声を、クロスフェーダーボリュームでスタートさせることもできます。



フェーダースタートプレイ(接続したCDプレーヤーをスタートさせる場合)

本機とDJ用CDプレーヤーCDJ-100S、CDJ-700S、CDJ-500 をコントロールコードで接続するとフェーダースタートプレイが可能です。つまり、ミキサーのチャンネルフェーダーボリュームまたはクロスフェーダーボリュームを上げると、CDプレーヤーのポーズが解除し、自動的かつ瞬時に曲がスタートします。また、フェーダーの位置を元に戻すと、CDプレーヤーをキューポイントまで戻すこと(バックキュー)ができるのでサンプラーのようなプレイもできます。



— クロスフェーダースタートプレイ&バックキュープレイ
Aがキューポイントでスタンバイ時に、クロスフェーダーボリュームを右端から左へ動かすだけでAがスタートします。それと同時にBがバックキューします(キューポイントに戻ります)。
また、Bがキューポイントでスタンバイ時に、クロスフェーダーボリュームを左端から右へ動かすだけでBがスタートします。(同時にAがバックキューします。)

- 本機との接続でフェーダースタートプレイが可能なCDプレーヤー
- CDJ-100S
 - CDJ-700S
 - CDJ-500
 - (CDJ-50)
 - (CDJ-30)
 - (CDJ-50:バックキュー不可)

チャンネルフェーダーでスタートする

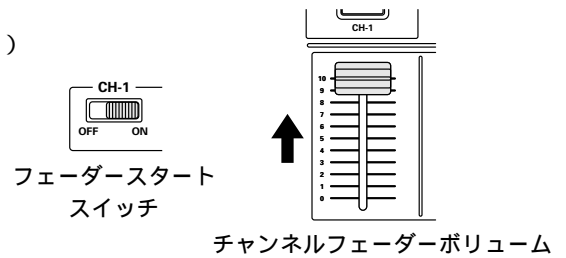
- ① 制御したいCDプレーヤーを接続したチャンネル (CH-1またはCH-2)のフェーダースタートスイッチをONする。
- ② チャンネルフェーダーボリュームを下へいっぱい絞る。
- ③ CDプレーヤーでキューポイントを設定し、キューポイントでスタンバイさせる。
- ④ スタートしたいタイミングで、チャンネルフェーダーボリュームを上げれば、CDプレーヤーが再生を始めます。

ご注意：

- クロスフェーダーアサインA、Bスイッチで選択されているチャンネルは、チャンネルフェーダースタートができません。

例は、CH-1に接続したCDプレーヤーをスタートさせる場合です。

(例)

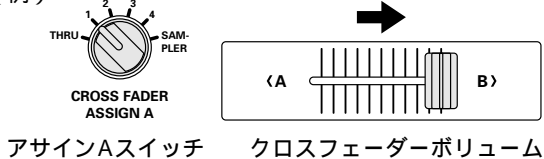


CDJ-100S、CDJ-700Sを使用する場合、あらかじめキューポイントが設定されていれば、キューポイントの位置でCDプレーヤーをスタンバイしておく必要はありません。再生開始後にチャンネルフェーダーボリュームを元の位置に戻すと、CDプレーヤーはキューポイントに戻り、スタンバイします。

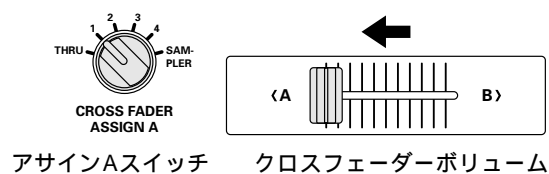
クロスフェーダーでスタートする

- ① 制御したいCDプレーヤーを接続したチャンネル (CH-1またはCH-2)またはサンプラーのフェーダースタートスイッチをONにする。
- ② クロスフェーダーアサインA、Bスイッチで、CDプレーヤーを接続したチャンネル (CH-1またはCH-2) またはサンプラーを選ぶ。
- ③ クロスフェーダーボリュームをスタートさせたいソースとは逆の方向へいっぱい絞る。
例は、CH-1に接続したCDプレーヤーをASSIGN Aに設定し、スタートさせる場合です。

(例)



- ⑤ クロスフェーダーカーブ切替スイッチでクロスフェーダーの立ち上がりカーブを選択する。
- ⑥ クロスフェーダーボリュームを手順③と反対の方向へスライドさせると、CDプレーヤーまたはサンプラーが再生を始めます。



CDJ-100S、CDJ-700Sを使用する場合、あらかじめキューポイントが設定されていれば、キューポイントの位置でCDプレーヤーをスタンバイしておく必要はありません。再生開始後にクロスフェーダーボリュームを元の位置に戻すと、CDプレーヤーはキューポイントに戻り、スタンバイします。

- ④ CDプレーヤーをスタートさせる場合は、CDプレーヤーでキューポイントを設定し、キューポイントでスタンバイさせる。
サンプラーをスタートさせる場合は、エフェクト/サンプラー選択スイッチでサンプラープレイ (SINGLE、LOOPまたはSTRETCH LOOP)を選ぶ。
エフェクト/サンプラー選択スイッチでサンプラープレイを選択すると、エフェクト/サンプラーON/OFFスイッチは緑色の点灯になります。

故障？ちょっと調べてください

故障かな？...と思ったら、ちょっとチェックしてみてください。意外な操作ミスが故障とされています。また、本機以外の原因も考えられます。同時に使用している電気器具も合わせてお調べください。

下の項目をチェックしても直らない場合は、お買上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションへご連絡ください。

症 状	考えられる原因	処 置
電源が入らない。	● 電源コードが繋がっていない。	● 電源コンセントへつなぐ。
音が出ない、または小さい。	● 入力切換スイッチの位置が違っている。 ● 接続コードが正しく接続されていない。または、はずれている。 ● 端子やプラグが汚れている。 ● 後面のMASTER LEVEL ATT(マスター出力レベル調整つまみ)を絞りに切っている。	● 入力切換スイッチで再生中の機器を選ぶ。 ● 正しく接続する。 ● 汚れをふき取って接続する。 ● 後面のMASTER LEVEL ATT(マスター出力レベル調整つまみ)を調整する。
音が歪む。	● マスター出力レベルが高すぎる。 ● 入力レベルが高すぎる。	● 後面のMASTER LEVEL ATT(マスター出力レベル調整つまみ)を調整する。 ● TRIMつまみを調整して、入力レベルがピークレベルメーターの0dB付近になるようにする。
クロスフェードができない。	● アサインA、Bスイッチの設定が正しくない。	● アサインスイッチをクロスフェーダーするソースに正しく設定する。
CDプレーヤーのフェーダースタートができない。	● フェーダースタートスイッチがOFFになっている。 ● 後面のプレーヤーコントロール端子を接続していない。	● フェーダースタートスイッチをONにする。 ● コントロールコードで本機とCDプレーヤーのコントロール端子を接続する。
エフェクトが効かない。	● エフェクト/サンプラー選択スイッチの設定が正しくない。 ● エフェクト/サンプラーパラメーター2調整つまみがMIN(最小)になっている。	● エフェクトをかけたいチャンネルを正しく選択する。 ● エフェクト/サンプラーパラメーター2調整つまみを調整する。
外部エフェクターの音が歪む。	● 外部エフェクターからの入力レベルが高すぎる。	● 外部エフェクターの出力レベルを下げる。または、エフェクト/サンプラーパラメーター2調整つまみでリターンレベルを調整する。
BPMが測定できない。 BPMの測定値がおかしい。	● 入力レベルが高すぎる。または低すぎる。 ● 曲によってはBPMを測定できない場合がある。	● TRIMつまみを調整して、入力レベルがピークレベルメーターの0dB付近になるようにする。 ● 他のチャンネルも入力レベルが0dB付近になるようにする。 ● TAPスイッチをたたいて手動でBPMを設定する。
測定したBPM値がCDの記載値と異なる。	● BPMの測定法が違うため、多少異なった値を示すことがあります。	● 処置は不要です。
CH-4 PHONO 3入力端子が使用できない。	● サブマイクが接続されている。	● サブマイクを抜いて使用する。

静電気、外部からの影響により、本機が正常に動作しない場合があります。このような時は、再度電源スイッチを入れ直すことにより正常に動作します。

仕様

オーディオ部

入力端子 (入力レベル/インピーダンス)

CD/LINE	- 14dBV (200mV)/22k
PHONO	- 54dBV (2mV)/47k
MAIN MIC	- 54dBV (2mV)/3k
SUB MIC	- 60dBV (1mV)/3k
RETURN	- 14dBV (200mV)/22k

出力端子 (出力レベル/インピーダンス)

MASTER OUT1 (RCA)	0dBV (1V)/1k
MASTER OUT2 (XLR)	4dBm (1.23V)/600
REC OUT (RCA)	- 10dBV (1V)/1k
BOOTH MONITOR	0dBV (1V)/1k
SEND	- 14dBV (1V)/1k
PHONES	0dBV (1V)/22

周波数特性

CD/LINE/PHONO/MIC	20Hz ~ 20kHz
-------------------------	--------------

SN比

CD/LINE	87dB (エフェクトOFF)
PHONO	77dB
MIC	69dB

全高調波歪率

CD/LINE/PHONO	0.02%以下
---------------------	---------

クロストーク	70dB以上
--------------	--------

チャンネルイコライザー

HI	+ 12dB、 - 26dB (13kHz)
MID	+ 12dB、 - 26dB (1kHz)
LOW	+ 12dB、 - 26dB (70Hz)

マイクイコライザー

HI	+ 12dB、 - 12dB (10kHz)
MID	+ 12dB、 - 12dB (1kHz)
LOW	+ 12dB、 - 12dB (100Hz)

エフェクター

ディレイ、エコー	1 ~ 3500mSec
オートパン、オートトランス、 フィルター、フランジャー	10 ~ 16000mSec
リバーブ	1 ~ 100%
ピッチシフター	0 ~ ±100%

電源部・その他

電源電圧	AC 100V, 50/60Hz
消費電力	28W
動作温度	+5 ~ +35
動作湿度	5% ~ 85%
外形寸法	320 (幅) x 372 (奥行) x 107 (高さ) mm
重量	6.6kg

付属品

● ショートピンプラグ	6
● 取扱説明書	1
● 安全上のご注意	1
● ご相談窓口・修理窓口のご案内	1
● 保証書	1

上記の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

保証とアフターサービスについて

保証書(別に添付してあります。)について

保証書は、必ず「取扱店名・購入日」等の記入を確かめ取扱店から受取っていただき、内容をおくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間と保証内容について

保証期間について

保証期間は、取扱説明書の注意にしたがった使用で、ご購入より1年間です。

次のような場合には保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、性能、動作の保証をいたしません。また、故障した場合の修理についてもお受けいたしかねます。

本機を改造して使用した場合、不正使用や使用上の誤りの場合または他社製品や純正以外の付属品と組み合わせて使用したときに、動作異常などの原因が本機以外にあった場合。

故障、故障の修理その他にともなう営業上の機会損失(逸失利益)は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず補償いたしかねますのでご了承ください。

補修用性能部品の保有期間

当社はこの製品の補修用性能部品を製造打切後8年間保有しています。

お客様ご相談窓口(全国共通フリーフォン)

カスタマーサポートセンター

家庭用オーディオ/ビジュアル製品のお問い合わせ窓口

 0070-800-8181-22

カタログのご請求窓口

 0070-800-8181-33

<ご注意> PHS、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話および海外からの国際電話ではご利用になれません。予めご了承ください。
修理に関しては別添の『ご相談窓口・修理窓口のご案内』をご参照ください。

ホームページでのカタログ請求とメールサービス登録のご案内

<http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg.html>

愛情点検



長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか

- 電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
- 電源コードにさけめやひび割れがある。
- 電気が入ったり切れたりする。
- 本体から異常な音、熱、臭いがする。



すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店または当社サービスステーションに点検(有料)をご依頼ください。

修理を依頼されるとき

取扱説明書をよくお読みいただき、もう一度、ご確認ください。異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてください。

お願い

故障内容によっては、製品全体を取りはずすことが必要となります。その場合には、据付業者に依頼しなければサービスを行えない場合がありますので予めご了承ください。

保証期間中は

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社無料修理規定に基づき修理いたします。お近くのパイオニアサービスステーションまたはお求めの販売店にご相談ください。保証書の規定にしたがって修理致します。


連絡していただきたい内容

ご住所・ご氏名・電話番号
製品名・型番・ご購入日
故障または異常の内容(できるだけ詳しく)
訪問ご希望日
訪問先までの道順と目標(建物、公園など)

保証期間が過ぎているときは

最寄りのパイオニアサービスステーションまたはお求めの販売店にご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

©2001パイオニア株式会社 禁無断転載

パイオニア株式会社  153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号